

事例紹介

QND Plus → QAW乗換え

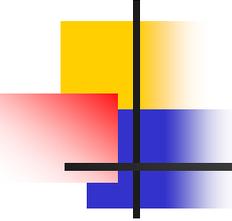


2011年4月20日
国際興業株式会社
総務部情報システム課
仲谷 美乃里

会社概要

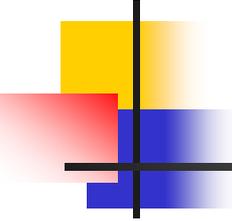
- 社名 国際興業株式会社
- 創業 1940年(昭和15年)5月15日
- 本社 東京都中央区八重洲2-10-3
- 代表者 小佐野 隆正
- 事業内容 運輸交通・観光レジャー・流通商事・不動産・・・他
- 従業員数 2,400名





アジェンダ

1. QAWへの乗換え動機
2. 乗換え作業
3. アプリ起動制御機能の設定
4. Viper機能の設定
5. 今後の課題



1. QAWへの乗換え動機

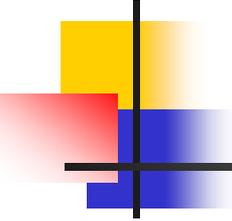
■社内ネットワークの検疫

→社内ネットワークの検疫システムが未導入だった為、**会社で許可していないPCが接続されてしまう恐れがあった**

■使用禁止ソフトの起動制御

→使用禁止とすべきソフトの**辞書を持っていなかった**

→業務に関係のないソフトの**アンインストールを促す事に限界を感じていた**



2. 乗換え作業

当社におけるQND運用環境

■ライセンス数: 980

■インストール数: 900

■バージョン: 9.1

■サーバー構成

HDD: 36.4GB × 2 (RAID1)

⇒システムドライブの空き容量: 10GB

CPU: Pentium IV (3.40GHz)

メモリ: 1024MB

2. 乗換え作業

乗換え作業の流れ・要した期間

前準備 マニュアル読み合わせ(1週間)

①サーバーのバックアップ(1日)

②製品CD使用によるQNDアンインストール・
QAWの上書きインストール(1日)

③コンソールのインストール(1日)

④クライアント展開(3ヶ月:達成率95%)

■タスク実行によるクライアントプログラムの
インストール

■確認用タスク実行による乗換え確認

2. 乗換え作業 苦勞した点①



クライアント展開作業

- クライアントプログラムをインストールするタスクを実行した後、乗り換えを確認する為のタスクを実行する必要がある
- QNDの時はHWインベントリから収集した「QPオプション」のバージョンから、バージョンアップの完了を確認することができた
- 接続がうまくいかないクライアントへの対応

<乗換え確認用タスク作成画面とグループフィルタの作成>

ソフトウェアインベントリを収集

基本ソフトウェアの収集

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> OS 情報の収集 | <input checked="" type="checkbox"/> IE/MS 情報の収集 |
| <input checked="" type="checkbox"/> アプリケーションの追加と削除情報の収集 | <input checked="" type="checkbox"/> Notes の情報と実行ファイルの情報を取得 |
| <input checked="" type="checkbox"/> Microsoft Office の情報を取得 | <input type="checkbox"/> Microsoft Office 95/97 の情報を収集 |

場所を指定して収集 [EXEファイルだけを収集]

- レジストリやWININIファイルに登録されているソフトウェアの収集
 スタートメニューの登録項目のリンクから取得
 デスクトップに置かれているショートカットのリンクから取得

独自に収集するファイル一覧:

ファイル名

%Windir%*.*\QND.TMP\bin\QAWOption.exe
C:*.*\QND.TMP\bin\QAWOption.exe
%ProgramFiles%*.*\Viper*.*\ViperNodeServer

追加(A)

インポート(E)

削除(D)

プロパティ(P)

条件設定

インベントリの種類

ソフトウェアインベントリ

使用するインベントリ

- 保存先と同じ
 タスク指定

条件設定

項目名

ソフトウェア一覧から選択

比較する文字列・値 任意の文字列を入力

QAWOption.exe [9.6000005] 430a9508ac1b1(

条件

含まない

アルファベットの大文字小文字の区別をする

OK

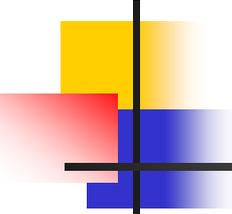
キャンセル

2. 乗換え作業 苦勞した点②



マニュアルにない対応

- 乗換手順書P14「QAW関連のプロセス稼働の有無を確認」において「FileServer.exe」が確認の対象に含まれているが、動作を確認することができなかった
→結果的に確認できなくても問題ないとの回答
- プラグインインベントリ収集(クライアントプログラムインストールタスクにて設定)を行った際、ウィルスバスター Corp.Ver10が不正動作とみなしてしまい、テスト端末で検知を知らせる画面が立ち上がってしまった
- コンソールのインストールにあたり、.Net Frameworkがインストールされていない端末だとViperコンソールが立ち上がらない事が分かった



3. アプリ起動制御機能の設定

アプリ起動制御機能とは

アプリ起動制御機能とは・・・

→特定のアプリの起動を特定のPCに対して禁止することができる

<起動制御を設定できるアプリ>

①クオリティ社提供 起動制御用アプリDB

→**自社で調査できないアプリを登録できる！**

②独自で作成したアプリDB

→上記以外のアプリで設定を行いたい場合に作成業務に関係のないアプリ等

3. アプリ起動制御機能の設定

設定①クオリティ社提供DB

- ①クオリティ社HPよりプログラムのDL→保存
※プログラムは定期的に更新される
- ②保存したプログラムの読み込み
アプリケーションDBに登録される
- ③登録されたDBの内容確認
- ④起動制御の設定
該当DB選択→ホスト選択→ホストごとのアプリ
DB設定→実行管理関連より「実行可能」のチェックを外す

3. アプリ起動制御機能の設定

設定②独自で作成したアプリDB

①アプリDBの登録(2つの方法)

→■「全ソフトウェア一覧」から登録

(メリット)設定対象とするアプリをグループ化できる

(デメリット)アプリの実行ファイル名を調べる必要がある

→■ホストのアプリケーションの追加と削除情報から登録

(メリット)アプリの実行ファイル名がそのまま設定できる

(デメリット)アプリごとにアプリDBに登録される

=グループ化できない

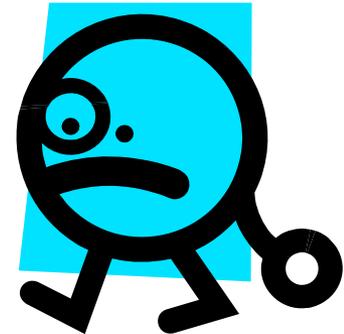
②登録されたDBの内容確認

③起動制御の設定

4. viper機能の設定

Viper環境設定の状況

現在の状況→未完



<Viper環境構築状況>

■セグメント数・・・39

■ノードサーバ・・・各セグメント2台(クライアント端末)

■ホワイトリスト作成

■テスト項目の作成

4. viper機能の設定

Viper環境設定の課題

- ノードサーバの設定
クライアント端末にインストールしているので、
監視されていない日がある
→ **ノードサーバ専用の端末の導入**を検討
- 検証の足踏み
- 上記によるホホワイトリストの追加作業
- 運用方法の検討
各部門(ユーザ)へのヒアリング実施

5. 今後の課題

- QAWの活用を押し進める為の環境整備
→QAWの地位向上に向けた取り組み
- 課内での運用ノウハウの共有
→運用の合理化・効率化をはかる
- 業務定型化に向けたしくみづくり
→管理表の作成・運用マニュアルの整備

